



AURA CONTEMPORARY
ART FOUNDATION

財團概要

ご挨拶 MASSAGE

令和2年11月1日、メコン現代美術振興財団は、
アウラ現代藝術振興財團 / Aura Contemporary
Art Foundation として生まれ変わりました。これもひとえに、今まで、財団をご支援いただ
いております皆様のご尽力の賜物と深く感謝
いたします。

南紀白浜を飛び出して15年、One Asia Lawyers
(URL: <https://oneasia.legal/>) をカンボジアの地
で創業して以来、約10年の月日が流れました。
アジア地域における近代化や都市化等の影響
により、そこに本来存在していたよいコト、モノ
や価値観が消滅していく状態をしてき
ました。

和歌山県紀南地域というアジアの田舎を出身
とする私個人として、「その土地にしかない、そ
こにしかない価値(アワフ)」を維持し、さらに
発展させることが世界の安定や平和に繋がる
のではないかと考えています。

それを体現するために、2019年に私財を投じ、
メコン現代美術振興財団を立ち上げました。こ
のたび、地域的な枠組みを越えて、その活動を
全世界に拡大するため、アウラ現代藝術振興
財団 / Aura Contemporary Art Foundation に名称
を変更致しました。

アウラ現代藝術振興財團 / Aura Contemporary Art Foundation

代表理事 藪本 雄登

財団について ABOUT US

また、「アウラ」とは、ファシズムの時代を生き
たドイツの哲学者であるヴァルター・ベンヤ
ミンの論考で述べられた「いま」「ここ」にしか
存在しない精神的、内面的、儀礼的価値」と解
釈しています。西欧の精神的価値や欧米にお
ける Contemporary Art の文脈を尊重するため、
英語名称は Aura Contemporary Art Foundation
としました。

他方、日本語名称については、「美術」から「藝
術」に変更しています。それは「現代アート」の
概念が、日本語の「美術」のフレームワークでは
取まらなくなっていると感じるためです。ま
た、アウラ現代藝術振興財団では、草の根活動
を活動の中核としており、「精神の種を植える」
という意味である「藝」という言葉を使うこと
を決断しました。

現代藝術や Contemporary Art を通じて、各地域
の文化振興、文化教育、一次産業や二次産業の
産業経済振興、観光振興等に貢献するととも
に、ひいては、その地域自身が「藝術」や「Art」に
も貢献できるような世界を構築していきたい
と思います。

今後とも皆様の一層のご指導、ご支援のほどよ
ろしくお願い申し上げます。

世界には
国境とは異なる独自の文化圏がある。

地域ごとに独自の歴史背景や思想を持ちながらも
違いや矛盾をこえ、一つになる寛容さがここにはある。

経済とは異なる、生命でつながった共同体。
目に見える豊かさだけではない
生命力に満ち満ちた、人間の生き様が生み出す豊かさがある。

むき出しの生命が生み出すエネルギーは
いつしかアートという表現に昇華されるようになった。

国境や近代法律では制限できない枠におさまらない。
そこに、私たちは人間の可能性を感じられずにはいられない。

アートやカルチャーという視点でみれば
ここには、古くからずっと存在していた
新しい価値観が見えてくる。

人間贊歌。生命贊歌。

名称 一般財団法人 アウラ現代藝術振興財団

住所 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田 2760 番地の 121

創業者 / 代表理事 藩本 雄登

理念 PHILOSOPHY

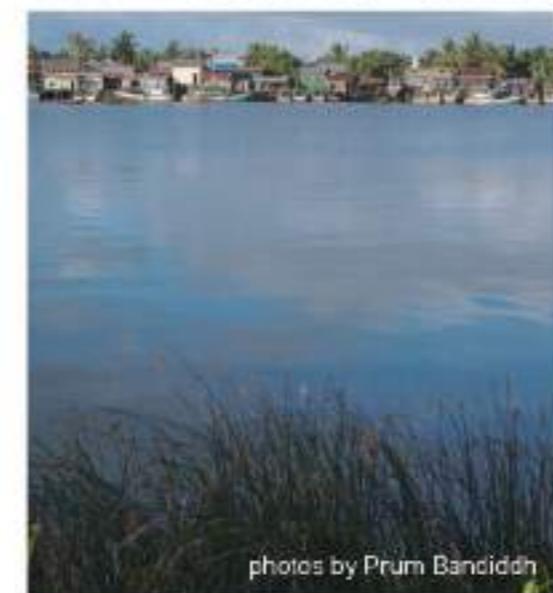
アウラ現代藝術振興財団 /Aura Contemporary Art Foundation は、世界の近代化、発展や都市化の流れの中で失われてきた、全世界の「その土地にしかない、そこにしかない価値（アウラ）」を維持発展させ、人々がより豊かに生きる地域や平和な世界を構築することを目指し、活動していきます。

活動 ACTIVITY

「その土地にしかない、そこにしかない価値（アウラ）」を維持発展させるため、現代藝術や現代アートを通じて、世界中のその土地に根ざした現代藝術や文化の研究、アーカイブ作成、展示、情報発信を行い、世界のアーティスト、キュレーター等の発掘及び育成に努め、また諸外国の現代美術やアーティスト等との国際交流の促進等を行っていきます。



photos by Prum Bandiddh



photos by Prum Bandiddh



photos by Prum Bandiddh



財団の活動 PROJECT

アウラ現代藝術振興財団では、

- 1)日本および世界各地の現代藝術や Contemporary Art に関する研究活動、
- 2)助成事業、
- 3)教育支援事業等を行っております。

1)世界各地の研究、アーカイブ作成、展示会の実施

- 紀南アートウィーク
紀南アートウィークの共催、実行

- Aura Asia Art Project
アジアにおける現代美術に関する
研究、アーティストや作品等の
アーカイブ作成、各地の展示会情報の発信

2)助成事業

財団の理念を共有する日本及び世界の現代美術に関するプロジェクトに
対する支援事業。

3)アーティスト、美術館支援、コレクション事業

日本及び世界のアーティスト向けのセミナー、私立美術館に対する支援事業、
全世界のアート作品のコレクションを行っております。



コレクション展

水の越境者(ゾーミ)たち

・メコン地域の現代アート・

船場アートサイトプロジェクト

2021年7月17日～9月5日 11:00～20:00(コア期間)

船場エクセルビル(大阪府大阪市中央区久太郎町3丁目2-11)

主催：株式会社 ARTLOGUE

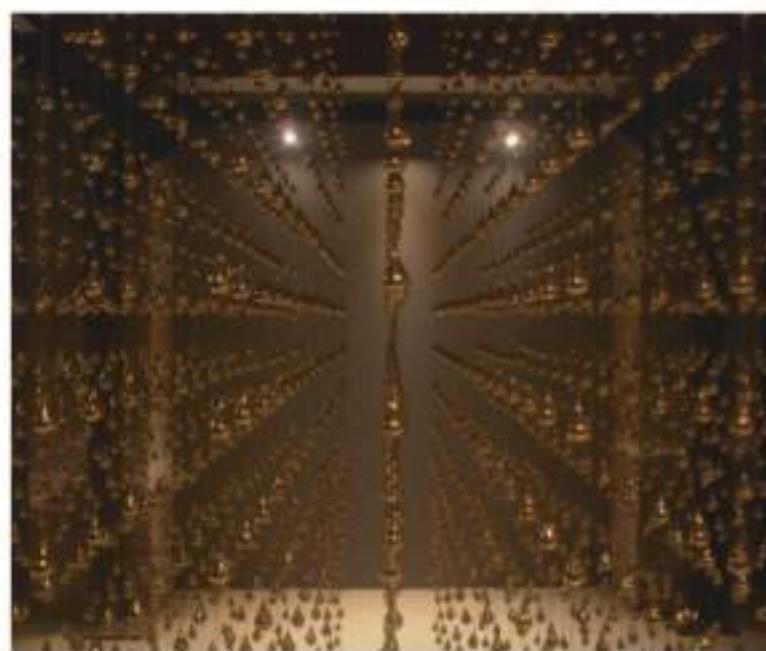
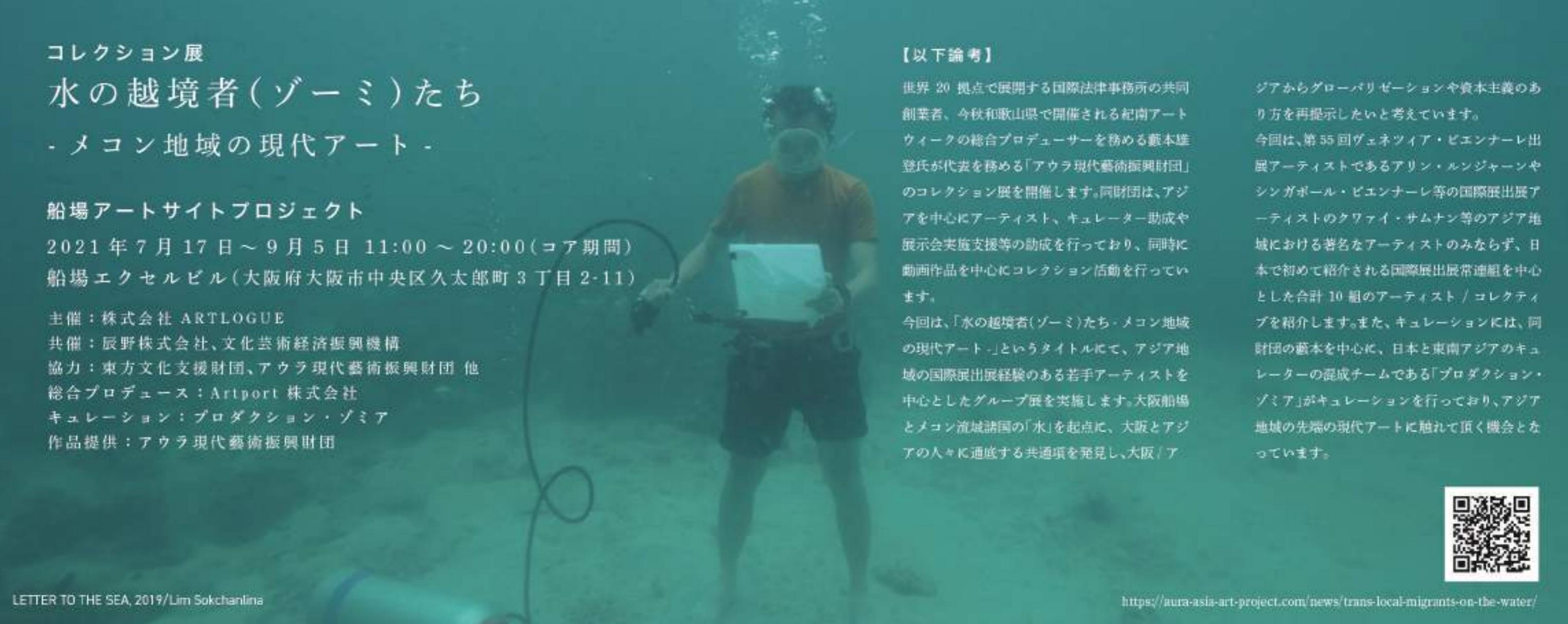
共催：辰野株式会社、文化芸術経済振興機構

協力：東方文化支援財団、アウラ現代藝術振興財団 他

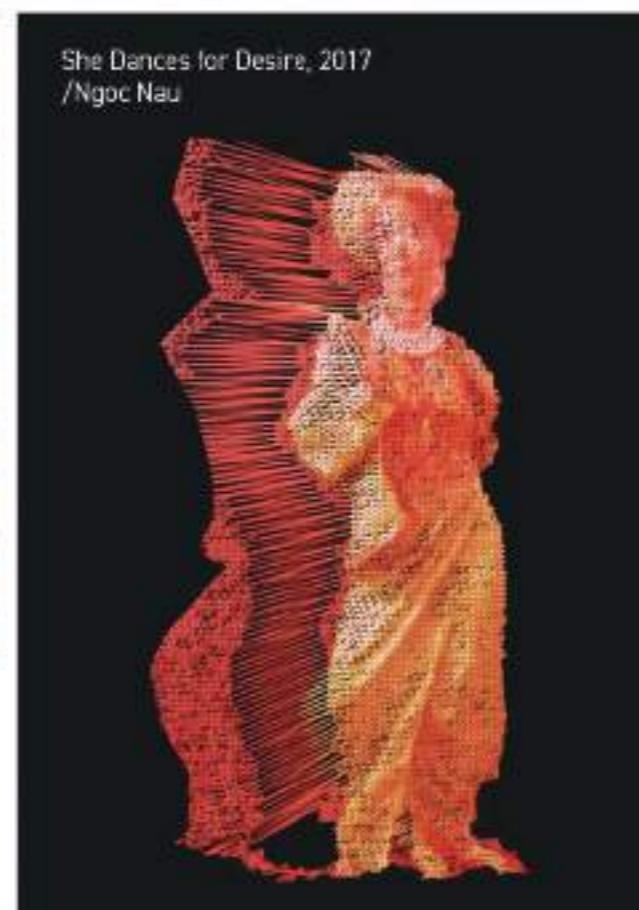
総合プロデュース：Artport 株式会社

キュレーション：プロダクション・ゾミア

作品提供：アウラ現代藝術振興財団



Golden Teardrop/Arin Rungjang

She Dances for Desire, 2017
/Ngoc NauMother of River, 2020/
Mech Sereyrath

Flow, 2018/Souliya Phoumvong

【以下論考】

世界 20 拠点で展開する国際法律事務所の共同創業者、今秋和歌山県で開催される紀南アートウィークの総合プロデューサーを務める薮本雄登氏が代表を務める「アウラ現代藝術振興財団」のコレクション展を開催します。同財団は、アジアを中心にアーティスト、キュレーター助成や展示会実施支援等の助成を行っており、同時に動画作品を中心にコレクション活動を行っています。

今回は、「水の越境者(ゾーミ)たち・メコン地域の現代アート・」というタイトルにて、アジア地域の国際展出展経験のある若手アーティストを中心としたグループ展を実施します。大阪船場とメコン流域諸国の「水」を起点に、大阪とアジアの人々に通底する共通項を発見し、大阪／ア

ジアからグローバリゼーションや資本主義のあり方を再提示したいと考えています。

今回は、第 35 回ヴェネツィア・ビエンナーレ出展アーティストであるアリン・ルンジャーンやシンガポール・ビエンナーレ等の国際展出展アーティストのクワティ・サムナン等のアジア地域における著名なアーティストのみならず、日本で初めて紹介される国際展出展常連組を中心とした合計 10 組のアーティスト / コレクティブを紹介します。また、キュレーションには、同財団の薮本を中心に、日本と東南アジアのキュレーターの混成チームである「プロダクション・ゾミア」がキュレーションを行っており、アジア地域の先端の現代アートに触れて頂く機会となっています。



<https://aura-asia-art-project.com/news/trans-local-migrants-on-the-water/>

“Generation in Transition”
移行期の世代：変化する実践
- カンボジア現代芸術



当財団においては、アジア太平洋地域における各地の調査、研究や展示会実施支援を行っています。その一例をご紹介致します。

「移行期の世代：カンボジア現代芸術」プロジェクトでは、カンボジア・プノンペンに居住し活動する様々な世代のカンボジア人アーティストのポートフォリオ、アーティストたちがその芸術実践と作品を語るドキュメンタリー映像を紹介しています。このプロジェクトは今年、メコン現代美術振興財団が実施したカンボジアの現代美術に関する広範な初の試みです。

現在カンボジアは、約 15 年以上にわたって、変化する環境、開発、政治、持続可能性についての経済的、倫理的な問題について経験し、それらは地域のコミュニティと社会に影響を与えてきました。そうした変化はしばしば、ポジティブな影響とネガティブな影響を併いながら、この興味深い移行期の時代を生き抜く現代アーティストたちの作品に、世代を超えて反映されています。このプロジェクトは、異なる文脈、異なる視点、異なる世代のアーティスト作品を取り上げ、その変化の在り方を明らかにし、カンボジア社会

の現実を紹介、体験してもらうことを目的とします。

これらのポートフォリオは、既存の作品、メディア掲載、出版物のみならず、様々な关心と芸術的表現形式とともに、変化の実践、変化の視点、芸術表現についてより多くのことを示す取り組みを紹介します。これらは、芸術における伝統、歴史、都市、環境、アイデンティティ、ヒューマニティ、政治、社会といった、いくつかの重要なテーマで形成されています。その現代的な思想は、絵画、ドローイング、ミクストメディア、写真、映像、彫刻、インсталレーション、パフォーマンスのような、伝統的、近代的、現代的なメディアを通じて表現されています。

協力アーティスト／協力者

Leang Seckon/Khvay Samnang/Lim Sokchanlina
Kong Vollak/Tith Kanitha/Chow Theanly
Neak Sophal/Pen Robit/Sao Sreymao
Eng Rithchandaneth/Khiev Kanel
Chhun Phanith/Yuto Yabumoto/Kazue Suzuki
One Asia Lawyers

本プロジェクトでは、ミャンマーにおいて、各プロジェクトにおいて 10 名のアーティスト / アート・コレクティブを取り上げ、映像インタビューを撮影し、そのアーカイブを文章化し、最終的に展示会を実施する試みとなっております。

Abstraction of Breathing

タイトル：

ABSTRACTION OF BREATHING

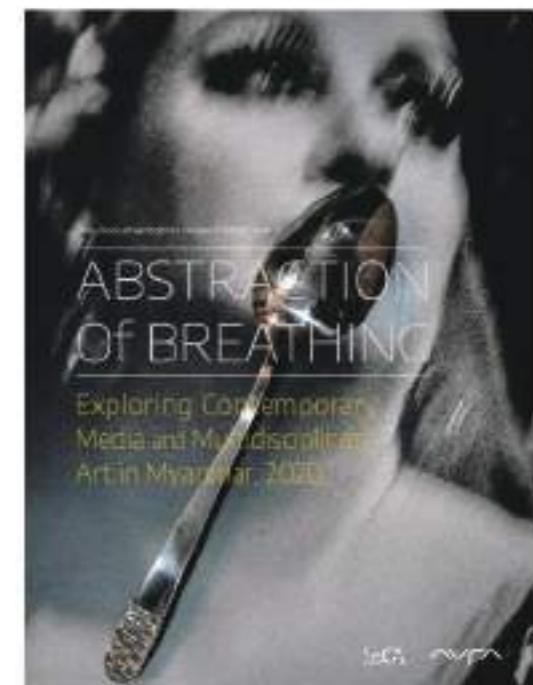
The Documentation Project of Contemporary Art in Myanmar 2020 Vol: 3

編集：

Aung Myat Htay
Founder of SOCA(School of Contemporary Art project)
Co-curated and supported by
Yuto Yabumoto
Director of AURA Contemporary Art Foundation

編集、デザイン、翻訳：

SOCA (School of Contemporary Art Project) in collaboration with AURA Contemporary Art Foundation Aung Myat Htay
Yuto Yabumoto (AURA)
Aung Myat Htay, Yuto Yabumoto and Diana Nwe Htwe Diana Nwe Htwe and Yuto Yabumoto Diana Nwe Htwe with special Thanks to Nathalie Johnston (Myanma/art), Ke' Su Thar, San Lin Tun SOCA team



Silence is Golden

アーティスト：

1. Maung Di (Painting/Installation art)
2. Htein Lin (Drawing/Multi-disciplinary art)
3. Min Zaw (Collage art)
4. Maung Day (Video/Multi-disciplinary art)
5. Zun El Phyu (Paperwork/Installation)
6. Thynn Lei Nwe (Print and Drawing)
7. Kyaw Htoo Bala (Photo Print)
8. Soe Yu Nwe (Sculpture/Ceramic Art)



アートコレクティブおよびオルタナティブスペース：

1. 3 AM (Group Performance Art)
2. Myanm/art (Gallery/Art Space).

当財団においては、アジア太平洋地域の映像作品を中心に、コレクションを継続しております。コレクションの一部を次の通り、ご紹介致します。



Golden Teardrop
アリン ルンジャーン / Arin Rungjang
Thai



WRAPPED FUTURE II
リム ソクチャンリナ / Lim Sokchanlina
Cambodia



1001st Island – The Most Sustainable Island in Archipelago
ティータ サリナ / Tita Salina
Indonesia



Across the Forest
チュオン コン トゥン / Truong Cong Tung
Vietnam

当財団においては、各地の専門家と協力しながら、アジア太平洋地域における現代アートの状況や文化の調査を実施しております。過去の事例をご紹介します。

なぜメコンの現代アートか - 社会的意義とその魅力 -

アウラ現代藝術振興財団 代表 藪本雄登



写真：メコン現代美術振興財団コレクション「Popil」より引用

なぜメコン流域諸国の現代アートなのか－この質問には、特に明確な答えはない。

ただ、「メコン流域諸国」という括りに強い魅力を感じるのは、メコン流域諸国には、国家、文化、民族、宗教、言語などを越えた、緩やかで既存の枠組みとは異なる、曖昧な境界があるからだ。フランスの哲学者ジャック・ランシエールが述べたような「感性的なものの分有」という概念がここには確かに存在し、そのことが私を強く惹きつける。

フィリピン・アート - 現代の文脈 -

著者：パトリック・D・フローレス、カルロス・キホン・ジュニア

翻訳：薮本雄登



Abuga-a, Kabit Sabit

フィリピンの現代アートの歴史は、美術史、美術制度、展覧会の開催、キュレーターの広範な活動等の現代性を織りかね緊急に伝える活発な芸術的実践によって構築されてきた。それは、刻々と変化する政治的環境や、フィリピン諸島の広大な生態系、そして民族性に語りかけ、介入していくために、広範囲に範囲に渡る表現行為によってなされてきたのだ。

タイにおける現代アートの概略と現在

アウラ現代藝術振興財団 代表 藩本 雄登

チュラロンコーン大学 コミュニケーションデザイン学科 教授 隅 英二



今回、当財団で助成を行っているバンコクアートビエンナーレ（BAB2020）の紹介を皮切りに、「タイにおける現代アートの概略と現在」について述べていきたい。今回は、日本、ニューヨーク、タイ、昨今ではアジア近隣諸国で活動する著名な現代アーティストであり、タイ在住で、チュラロンコーン大学で教鞭を取られる隅英二教授の監修の下、共同で執筆している。



ルアンサク アヌワトゥイモン



アイデンティティを再び、探し求めて

- 台湾現代アートと東南アジアとの繋がり -

著者：タカモリノブオ 翻訳：薮本雄登

台湾における現代アートを論じる際に、最初に直面する困難は「台湾」という言葉をどう定義するかという問題であろう。台湾現代アートの複雑かつ多層であり、多様な表現は、ダイナミックでオープンな社会を持ちながらも、疑義のある未承認の国家である台湾そのものに類似しているのではないだろうか。しかしながら、それと同時に、台湾発の現代アートの実践における最も魅力的な要素でもあったりする。



OCAC, 「THAITAI Fever」, バンコクのBACCにて, 2012. ©OCAC

